

	No.	事業名	事業概要	R4検討結果	事業実施判断
戦略1	1-ア	新しい生活・産業様式に対応するための調査研究事業	新型コロナウイルス感染症によりもたらされた停滞した経済からの回復を図るための取組(生産性向上のためのデジタル化等未来新技術への対応、地域間競争を見据え将来を見越した産業分野の育成など)や、感染の拡大に伴う新たな生活様式に対応した地方移住や副業、ワークライフバランスの充実への関心の高まりに対する対応(ワーケーション、サテライトオフィス、テレワークなど)に係る取組について調査研究を行う。	盛岡広域振興局と連携し、盛岡広域首長懇談会事務検討会議地方創生連携専門部会にて、県DX推進専門官を講師に招き、勉強会を開催。引き続き、国のデジタル田園都市国家構想の実現を見据え、各市町の取組状況について情報共有を図りながら、広域連携による展開の可能性について調査研究を行う。	A:引き続き検討を行う。
	1-イ	国際リニアコライダー誘致推進事業	国際リニアコライダーの誘致実現を目指した取組を進めるとともに、外国人居住者の増加や関連企業の集積、新産業の創出など誘致実現後の社会変化に対応するため、情報共有を図りながら広域で連携したまちづくりのあり方を検討する。	国際リニアコライダーの誘致実現を目指した取組を進めるとともに、外国人居住者の増加や関連企業の集積、新産業の創出など誘致実現後の社会変化に対応するため、情報共有を図りながら広域で連携したまちづくりのあり方を検討する。	A:引き続き検討を行う。
戦略2	2-ア	広域的公共交通網の利便性向上に係る調査研究事業	人口減少社会においても公共交通網を維持しつづける観点から、利便性の向上を図り以て利用者を確保するため、交通系ICカードなどの導入やサービスの共通化、電子決済データと車両運行管理データを統合した情報分析による運行経路やダイヤの最適化、異なる公共交通間の乗り継ぎの改善など、MaaS基盤の整備を見据えた調査研究を行う。	ICカードの導入については、令和4年度に岩手県交通の一部路線の交通系ICカード導入事業に対する補助を実施し、令和5年度以降も岩手県交通の残りの路線に順次導入するため支援を検討している。(岩手県北自動車及びJRバス東北については導入済み。) 現時点で、バス事業者、鉄道事業者、タクシー事業者の市内乗入路線の全てにICカードが導入されていないことから、具体的な検討には至っておらず、今後もICカードの普及に向け支援を行うとともに、継続してデータ活用による運行改善や割引制度などについて事業者等を交え調査研究を行う。	A:引き続き検討を行う。
	2-ア	北岩手・北三陸横断道路の整備促進	盛岡市以北において、内陸部と三陸沿岸北部を結ぶ路線は、線形不良や隘路区間のほか、急勾配・急カーブが連続する交通の難所であり、移動に多くの時間を要する状況にある。盛岡以北の市町村には、農林水産物など魅力ある地域資源が数多くあるほか、災害時の後方支援拠点に指定されていることなどから、観光や災害対策の面など多分野において地域間連携を加速させ、地方創生や人口減少対策に寄与するため、「北岩手・北三陸横断道路」の整備促進に向けた要望活動を行う。	北岩手・北三陸横断道路整備促進期成同盟会が主体となり、当該路線の整備促進に向けた要望活動を展開してきたところである。 令和3年6月に「岩手県新広域道路交通ビジョン」「岩手県新広域道路交通計画」が策定され、当該路線は、高規格道路としての役割が期待されるものの、個別路線の調査に着手していない「構想路線」として「(仮称)久慈内陸道路」の名称で位置付けられたところである。 次の段階となる個別路線の調査など及び高規格道路として早期に着工・整備されるよう、今後も継続して要望を行う。	A:引き続き検討を行う。

	No.	事業名	事業概要	R4検討結果	事業実施判断
	2-ア	盛岡西廻りバイパス北バイパスの整備促進	盛岡西廻りバイパス北バイパスは、平成26年度に策定した「盛岡広域都市圏道路網基本計画」において、2環状6放射の骨格道路網の重要な幹線道路として位置づけられており、国道46号西廻りバイパスの4車線化も進んでいる。盛岡西廻りバイパス北バイパスの早期整備は、盛岡広域圏における主要幹線である主要地方道盛岡環状線や国道4号盛岡バイパスの渋滞緩和にも繋がり様々な盛岡広域圏のネットワークの強化を図ることができることから、盛岡広域圏の市町及び国、県と連携した取組を進める。	国道46号西廻りバイパスについては、国土交通省東北地方整備局から令和3年4月に公表された「防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラム(東北ブロック版)」に位置付けられたところであり、今後さらに事業進捗が図られるものと考えているが、2車線供用区間の4車線化の整備促進を継続して要望する。 北進計画については、令和3年度から国が開催している盛岡都市圏道路の勉強会の中でも話題として挙げられているが、現時点では構想路線の段階であり具体的なルートも決まっていないと伺っているところであり、今後も早期整備について継続して要望を行う。	A:引き続き検討を行う。
	2-ア	一般国道4号「盛岡南道路」の整備促進	一般国道4号「盛岡南道路」は、平成26年度に策定した「盛岡広域都市圏道路網基本計画」において、重要な幹線道路に位置づけられている。交通ネットワークの充実により、人やモノの流れの活発化や地域資源や機能の相互利用が見込まれることから、各市町を結ぶ道路ネットワークを形成するため、盛岡広域圏の市町及び国、県と連携し、整備促進に向けた取組を進める。	盛岡南道路については、国において、これまで計画段階評価や都市計画決定を経て、令和4年度に新規事業化されたところである。盛岡市を中心とした都市圏の圏域人口の維持や持続可能な経済・産業圏域の形成、高次都市機能の集約強化、そして「命を守る医療体系」を機能させるとともに、これらを支える渋滞のない道路ネットワークを形成するため、一般国道4号「盛岡南道路」の整備促進について今後も継続して要望を行う。	A:引き続き検討を行う。
戦略3	3-イ	地方創生SDGs推進調査研究事業	SDGs登録・認証等制度により、SDGsに積極的に取り組む地域事業者等の「見える化」を行い、地域事業者等の認知度向上や人材確保、多様なステークホルダーの連携による自律的好循環の形成を図り、コロナ禍において新型コロナウイルス感染症によりもたらされた停滞した経済からの回復を図るとともに、地方創生及びSDGsの推進を図る	盛岡市と岩手県立大学との協働研究「盛岡広域地方創生SDGs登録等制度の構築に係る調査研究」を実施し、昨年度抽出された課題の解消へ向けたアプローチ方法を探り、盛岡広域における構想案をまとめ、盛岡広域首長懇談会事務検討会議地方創生連携専門部会を構成する各市町担当者へヒアリングを行い、事業の方向性について了承を得た。 令和5年度については、事業の試行へ向け制度構築や体制整備等について調整を行うため、引き続き検討を行う。	A:引き続き検討を行う。
	3-イ	デジタル化推進調査研究事業	Society5.0の進行やコロナ禍における行政のデジタル化の推進について、広域で取り組むことが効果的である分野の選定や協同して取り組む手法について調査研究を行う。	盛岡広域振興局と連携し、盛岡広域首長懇談会事務検討会議地方創生連携専門部会にて、県DX推進専門官を講師に招き、勉強会を開催。引き続き、国のデジタル田園都市国家構想の実現を見据え、各市町の取組状況について情報共有を図りながら、広域連携による展開の可能性について調査研究を行う。	A:引き続き検討を行う。